

金城学院幼稚園

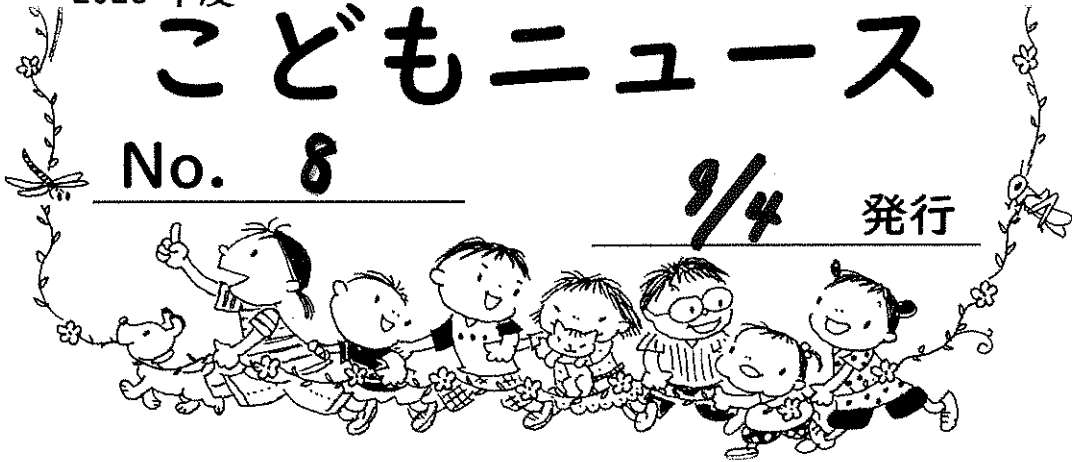
2023 年度

こどもニュース

No. 8

9/4

発行



【2 学期の始まり】

夏休みが終わり 2 学期がはじまりました。夏休み前半は連日 37 度を超える酷暑、8 月半ばは台風のコースや速度に翻弄されました。今までに経験したことのない雷雨や集中豪雨。世界的にも観測史上最高の平均気温だったという今夏、あちこちからニュースとして入る大規模火災や洪水、長引く戦いにも胸が痛みました。

一方、身近では、そのような中でもお祭りや花火大会が復活し、感染対策を取りながらも日常生活を取り戻そうという動きが見られました。皆様にとっての夏休みはどのような時間だったでしょうか。それぞれのご家庭にとって豊かな時であったことを願います。

【50 周年記念行事へのご参加・ご協力ありがとうございました!】

8 月 26 日(土)の金城学院幼稚園設立 50 周年記念礼拝・記念コンサート及び同窓会では多くの皆様のご参加をいただきました。

卒園生・保護者の事前の参加お申込みだけで 1200 名、当日飛び入りでご参加くださった卒園生も多く、在園の皆様と合わせると延べ 1500 名を超える参加だったと思われます。この日を迎えるまで 1 年以上前から新旧問わず卒園生や保護者の皆様が記念行事のご案内を発送するための名簿作りを手伝ってくださり、展示の準備、当日受付なども率先してお引き受けくださいました。また園の有志の会ははじめ、皆様それぞれが周年記念の会のために活動し、お祈りくださいました。そのような形で現れるこの園と皆様との絆が 1500 人を超す同窓の皆様との分かち合いの時につながったとあらためて感じています。

予想を超えた参加者数のため、在園の皆様にはご協力いただきアニー・ランドルフ記念講堂での記念礼拝・コンサートへのご参加を中心とさせていただきましたが、当日は、園のあちらこちらで再会の歓声があがり、旧職員や先生方の周りは常に人ばかりでした。

各お部屋には懐かしい時代のリュックや帽子（以前は、冬はフェルト、夏は麦わらの帽子でした）、卒園制作（版画をほっていた時代、本立てを制作していた時代もあります）や年代ごとのアルバムが展示され、子ども時代の自分や友達、若々しい 20 代の先生方(!)を探し出し笑い声が絶えませんでした。

金城学院幼稚園は初代園長、戸荻近太郎先生の「子どもは発達が違うのだから、一人ひとりの違いを大事にし、それぞれをいかした保育をしてほしい」という教育理念のもと、西川道子名誉園長はじめ、歴代の園長、また延べ80名に及ぶ職員が「一人ひとりを大切にいかす」「愛され、育ちあう」保育を目指して一生懸命子ども達に向き合い、今日に至っております。

「一人ひとりを大切にいかす」・・・当たり前のことですが簡単な事ではありません。その当たり前で難しいことをめざし、ここまで金城の保育を職員皆で力をあわせ、紡いでいくことができたのは、50年にわたり、子ども達、卒園生、保護者の皆様、学院関係の皆様が心を込めて、お支えくださったからです。自分の子どもだけではなく、ともに園の子ども達の育ちを喜び合い、考え、一緒に保育を創ってきてくださったからだと思います。本当にありがとうございます。

分断の時代と言われて久しく、世界のあちこちで「ここが違う」「あそこが悪い」とお互いに言い募る姿が目に入ります。

でも、私達は一人ひとり違う個性、その人だけのありよう、神様からいただいた、それぞれの賜物の違いを認め合い、お互いに活かしあい、わかちあい、支えあう幸せを知っています。大人も子どももお互いを大事にして育ちあってきました。その50年にわたる積み重ねの上に今回の周年記念があると実感し、この豊かな時を皆様と共に過ごしながらか、あらためて感謝の気持ちで一杯になりました。同時にこれからも子ども達の内面で育っていく目に見えない成長に心を注ぎ、一人ひとりを大切にいかす金城学院幼稚園の保育を、「愛され、育ちあう」保育を次の50年に繋げていかななくては、という使命をひしひしと感じております。

長い夏休みが終わり、2学期が始まります。様々な行事がありますが、毎日の子どもの遊びを大事に今学期も「愛され、育ちあう」保育にあたってまいりたいと思います。どうぞよろしく願いいたします。

児五、芽 